

宮古木曜会合唱団 第34回定期演奏会

2017年 2月26日 (日)

開演 14:00 (開場 13:30)

宮古市民文化会館大ホール

主催：宮古木曜会合唱団

後援：宮古市芸術文化協会

協賛：社団法人 Harmony for Japan 他



GREETING 御挨拶

宮古木曜会合唱団 団長 川原田 隆司

人間にとって「心の糧」は何よりも大切。その大切なものには 命がけでとりむべきである。

～宇野功芳「楽に寄す」より～

2016年は木曜会にとって晴れがましい年でした。第一に、25年ぶりに宮古市民文化会館で「第九」を歌ったこと。第二に、「希望郷いわて国体」の開会式に、県代表として出演したこと。テーマ曲「ふるさとの風」は、これからも歌い継がれていくことでしょう。

また、個人的には悲しく寂しい思いをした年でもありました。ダークダックスの「ゲタさん」こと喜早哲さん、「マンガさん」こと佐々木行さん、作曲家の富田勲さん、ピアニストの中村絃子さん、そして、音楽評論家、指揮者の宇野功芳さんがこの世を去られたのです。

昭和30年代、山田線に「カラス列車」が走っていた頃、ダークダックスは宮古小学校体育館にやってきました。私はダークのロシア民謡が大好きです。包み込まれるような哀愁を帯びたハーモニーはダークならではのもので、一遍に魅了されてしまいました。ゲタさんの声は地味ですが、ダークのハーモニーの要は彼にある、と私は思っています。

宇野功芳さんは、その著作やCDによって、私を名曲の世界へと誘って下さいました。モーツアルトの微笑と寂寥、ベートーヴェンの高貴、「水のいのち」の自然と人生……。自分の直感も大事ですが、耳の肥えた人の話は音楽の喜びを倍増させてくれます。感謝！

私達は皆、面識は無くても、いろいろな情報を通してかけがえのない出会いを経験しています。木曜会もまた、そうした先達の言葉、音楽を心の糧にして活動していく所存です。皆様、これからも温かい御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

PROFILE プロフィール

及川 尚樹 (おいかわ なおき) 指揮

一関市出身。茨城大学教育学部音楽科卒業、同大学院修了。ピアノを高橋晶、千葉和子、佐藤篤、小野寺美葉各氏に師事。現在宮古高校に勤務。

佐々木 幹雄 (ささき みきお) 指揮

岩手県立水沢高校、岩手大学教育学部卒業、同大学院修了(音楽教育)。声楽、合唱指揮及び宗教音楽を佐々木正利、指揮法を故佐藤功太郎、故中村伸一郎の各氏に師事。第3回仙台バッハ・アカデミーの指揮マスタークラス(講師：H. リリング)を修了。現在、熊友会ヴォーカル・アンサンブルのメンバー、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインのコンサートマスター、アンサンブル・コン・フォーコ(奥州市)指揮者、奥州市文化会館『ラ・ボエーム』合唱団の合唱指導を担当。奥州市立常盤小学校教諭。

共演者

ハープ：キャサリン・ポーター

ホルン：伊藤哲 (宮古市)

アンサンブル・ヴォルフィー

バイオリン：齊藤弦 (盛岡市) 佐藤葉子 (一関市) 寺崎巖 (盛岡市)

オーボエ：谷澤栄一 (釜石市) 杉村康昭 (大船渡市)

ファゴット：渡辺律 (大船渡市)

コントラバス：寺山貴大 (盛岡市)

ティンパニ：小笠原香織 (宮古市)

ピアノ/オルガン：藤田淑子(宮古市)



ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト

愛称 **ヴォルフィー**





PROGRAM プログラム

第1部 四季の彩り

指揮：佐々木幹雄 ピアノ：及川尚樹 バイオリン：齊藤弦

おぼろ月夜
夏は来ぬ
赤とんぼ

作詞：高野辰之 作曲：岡野貞一 編曲：ボブ・チルコット
作詞：佐々木信綱 作曲：小山作之助 編曲：篠田昌伸
作詞：三木露風 作曲：山田耕作 編曲：篠原真

「ヴィヴァルディが見た日本の四季」より

《冬》ペチカ

作詞：北原白秋 作曲：山田耕筰 編曲：信長貴富
作詞：吉野弘 作曲：高田三郎

「心の四季」より 1.風が

第2部 ハープの調べに乗せて

指揮：及川尚樹 ハープ：キャサリン・ポーター ホルン：伊藤哲

混声合唱

天使のキャロル

日本語歌詞：ヘルビック貴子 作詞・作曲：ジョン・ラター

女声合唱

「女声合唱とハープ、ホルンのための4つの歌」より

作詞：F.ルペルティ 作曲：ブラームス

ハープが強く鳴り響く

ハープ独奏

月の光

作曲：ドビュッシー

ロンドンデリーの歌

アイルランド民謡

第3部 心に染み入る調べ 合唱の愉しみ

指揮：及川尚樹 ピアノ：藤田淑子

混声合唱

ふるさとの風

作詞：工藤玲音 作曲：さだまさし 編曲：岩淵公夫

女声合唱

You Raise Me Up

作詞：ブレンダン・グラハム 作曲：ロルフ・ラブランド

男声合唱

「柳河風俗詩」より 「柳河」「かきつばた」

作詞：北原白秋 作曲：多田武彦

「梅雨の晴れ間」

混声合唱

安里屋ユンタ

作曲：松下耕

群青 作詞：福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生(構成：小田美樹)

作曲：小田美樹 編曲：信長貴富

..... 休憩

第4部 モーツァルト 「荘厳ミサ曲」 KV337

指揮：佐々木 幹雄

管弦楽：アンサンブル・ヴォルフィー

賛助出演：宮古高校音楽部

「荘厳ミサ曲」 KV337

作曲：W.A.モーツァルト

キリエ(憐みの賛歌) グローリア(栄光の賛歌) クレド(信仰宣言)

サンクトゥス/ベネディクトゥス(感謝の賛歌) アニュス・デイ(平和の賛歌)





NOTES 解説

第1部 四季の彩り

朧月夜

おぼろに景色が霞む春の宵。正に一幅の日本画が目に浮かぶようだ。
高野辰之、岡野貞一による大正唱歌の名品に、英国人ボブ・チルコットが
日本情緒豊かな編曲を施した。



夏は来ぬ

明治唱歌の傑作。歌人、そして万葉集研究家の佐々木信綱ならではの歌詞で、古歌から得られた夏の風物が散りばめられている。小山作之助の曲が先に生まれ、後で歌詞が作られた。現在活躍中の作曲家、篠田昌伸の編曲により、原曲の持つ日本的初夏の抒情が一層匂い立つようだ。

赤とんぼ

三木露風が大正10年に発表し、山田耕筰が昭和2年に作曲した。露風5歳の時、父母が離婚。母と別れた寂しい幼年時代の思い出を歌ったエレジーである。編曲は篠原真で、東京混声合唱団の十八番として長く歌い継がれてきた。

「ヴィヴァルディが見た日本の四季」より

《冬》ペチカ

大正13年「満州唱歌集」に掲載。日露戦争での勝利で満州に移り住んだ日本人の子弟のために作られた。白一色の満州の冬。ペチカ PECHKA とはロシア語で暖炉のこと。ペチカの前で一家団欒の時を過ごす様子が、北原白秋、山田耕筰による格調高い詩、曲から浮かび上がってくる。山田耕筰は曲の冒頭に「幻想的に」と指定しているが、編曲の信長貴富は、この曲にヴィヴァルディ「四季」の「冬」を組み合わせ、幻想性を更に深めた。個人的印象だが・・・凍てつく冬の深い闇に、一つの小さな灯がともる。それは次第に辺りをオレンジ色に染めてゆき、突然、ペチカの燃える暖色の世界が眼前に広がるのである。



「心の四季」より 1. 風が

「風が美しい桜の花びらを散らす」・・・うつろいゆく自然、そして人の心・・・「風」は、その象徴である。吉野弘の静謐な詩に高田三郎の透明で温かな和音が、四季の変化とともにゆっくりと進行していく。(川原田)

第2部 ハープの調べに乗せて

「女声合唱とハープ、ホルンの四つの歌」は、角笛を鳴らしているようなホルンの豊かな音と、豎琴であるハープのこの上ない美しい音が女声合唱の澄んだ響きと溶け合い、心地よい響きを生み出しています。「愛の悩み」を歌ったブラームス 27 歳の時の作品。女声合唱とハープとホルンという珍しい組み合わせによって、果てしなく音楽の世界が広がっていきます。

ロンドン生まれのジョン・ラターはたくさんのクリスマスキャロル（賛美歌）の作詞作曲や編曲をしています。キリスト誕生を祝って歌われる「天使のキャロル」。明るく軽やかなハープの響きと合唱との出会いをお楽しみください。

故郷のイギリスではプロのハープ奏者として活躍されていたキャサリン・ポーターさんですが、6年前の東日本大震災直後に来日し、日本各地で支援活動を行ってきました。どれほど多くの方がキャサリンさんのハープの音色に心安らぎ、癒やされたことでしょうか。今日はハープの魅力を、たっぷりとお楽しみください。（富樫）



第3部 心に染み入る調べ 合唱の愉しみ

第3部は【心に染み入る調べ 合唱の愉しみ】ということで、様々なジャンルの作品を様々なスタイルでお届けします。第3部の作品たちは、故郷のことや地方の民謡を取り入れたそれぞれ個性の強いものになっています。言葉も標準語や方言、日本語に外国語、また作詞も詩人から中学生までと、とても幅広いのがこの3部の特徴といえるかも知れません。

●混声合唱

『ふるさとの風』（2016）→岩手の情景を謳っている

『安里屋ユンタ』（1998）→沖縄八重山地方の民謡をモチーフにしている

『群青』（2011）→震災時の福島県の中学生在が作詞

●女声合唱

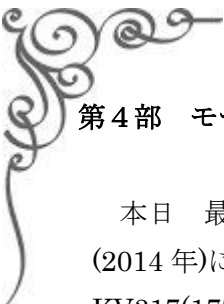
『You Raise Me Up』（2002）→アイルランド民謡をモチーフにしている

●男声合唱

『柳河風俗詩』（1954 初演）→地元の詩人北原白秋が当時の福岡県柳川市の様子を描いたもの

生まれた場所が違えば、見てきた景色は違うと思います。宮古で見ている海と、沖縄の海では同じ海でも別物でしょう。空や雲、山々もまた同様です。また宮古でいえば、震災前と後では見える景色が違うのではないのでしょうか。多くの年代を超え、あらゆる土地に旅をしていく・・・このステージはそういうものを歌で表現できたらいいなと思っています。そして、男声合唱のカッコよさ、女声合唱の美しさ、混声合唱の豊かさ、それぞれの音色を楽しんでいただけたらと思います。（及川）





第4部 モーツァルト 荘厳ミサ曲 KV337

本日 最後のステージは、モーツァルトのミサ曲です。近年の宮古木曜会合唱団は、第31回演奏会(2014年)に《ミサ・ブレヴィス ハ長調》KV248(1775年作曲)、翌年に《ミサ ハ長調「戴冠式ミサ」》KV317(1779年作曲)と続けて取り組んできました。

本日演奏する《ミサ[・ソレムニス]C・Dur》KV337はモーツァルトがウィーンに移り住む前、1780年に作曲したザルツブルクでの最後のミサ曲であり、生涯を通じて16曲残されているミサ曲の中でも最後の作品にあたります。モーツァルトがミサの通常文から得た音楽的なインスピレーションを形にした最終のものと言えるかもしれませんね。

作曲の形式としては「ミサ・ブレヴィス」すなわち「略式(短いミサ)」の様式で書かれていますが、《戴冠式ミサ》に負けない祝祭性を有しているため「ミサ・ソレムニス」すなわち「荘厳ミサ」とも記されています。

◎歌詞と音楽について…「ミサ通常文」

歌われている歌詞は「ミサ通常文」という文章です。これはカトリックの教会で行われるミサ、その際の式次第の中でいつも唱えられる祈りの言葉で、5つの部分からなっています。おおよその内容と、その祈りの言葉に作曲された音楽の概要は次の通りです。《1. あわれみの賛歌 Kyrie》…主であるキリストに「あわれんでください」と祈ります。全体を通して3拍子で、ミサを穏やかに開幕します。

《2. 栄光の賛歌 Gloria》…神の栄光を讃えます。一転して華やかな賛歌となります。《3. 信仰宣言 Credo》…主イエス・キリストを信じることを、一人称として(「私が…」)宣言します。三位一体を含意する3拍子が基本ながら、歌詞に応じた変化に富んだ楽曲です。《4. 感謝の賛歌 Sanctus 及び Benedictus》…「聖なるかな」と歌う Sanctus の部分と「ほむべきかな」と讃える Benedictus の2曲に分けて作曲されます。双方に「万歳！」と喜びを表す Hosanna の部分と同じ音楽で付けられています。Sanctus では賛意の漲った音楽が、Benedictus では(当時一般的な趣とは異なる)短調のフーガが展開します。《5. 平和の賛歌 Agnus Dei》…「われらをあわれみ、平安を与えてください」と祈ります。前半はまるでオペラ・アリアのような幸せに満ちたソプラノ独唱、後半は全奏による力強い祈りとなります。

弦楽器、木管楽器、打楽器、独唱、そして合唱と多彩な響きで、ミサで使われる実用音楽としては贅沢なまでのモーツァルトの素敵な音楽を、どうぞお楽しみください。(佐々木)



ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト



TEXT 歌詞

おぼろ月夜

菜の花畑に 入日薄れ
見渡す山の端 霞深し
春風そよ吹く 空を見れば
夕月かかりて 匂い淡し

里わの火影も 森の色も
田中の小道を 辿る人も
蛙の鳴く音も 鐘の音も
さながら霞める おぼろ月夜

夏は来ぬ

卯の花の 匂う垣根に
時鳥 早も来なきて
忍音もらす 夏は来ぬ

さみだれの そそぐ山田に
早乙女が 裳裾ぬらして
玉苗植うる 夏は来ぬ

橘の かおる軒場の
窓近く 螢飛びかい
おこたり諫むる 夏は来ぬ

棟ちる 川べの宿の
門遠く 水鶏声して
夕月すずしき 夏は来ぬ

五月闇 螢飛びかい
水鶏なき 卯の花さきて
早苗植えわたす 夏は来ぬ

赤とんぼ

夕焼小焼の赤とんぼ
おわれてみたのはいつの日か

山の畑の桑の実を
小籠につんだはまぼろしか

十五でねえやは嫁に行き
お里のたよりも絶え果てた

夕焼小焼の赤とんぼ
止まっているよ竿の先

ペチカ

雪のふる夜は たのしいペチカ
ペチカ燃えろよ お話しましよ
むかしむかしよ
燃えろよ ペチカ

雪のふる夜は たのしいペチカ
ペチカ燃えろよ おもては寒い
栗や栗やと
呼びます ペチカ

雪のふる夜は たのしいペチカ
ペチカ燃えろよ じき春来ます
いまに楊も
萌えましよ ペチカ

「心の四季より」

1. 風が

風が桜の花びらを散らす
春がそれだけ弱まってくる
ひとひらひとひら舞い落ちるたびに
—— 人は
見えない時間に吹かれている

光が葡萄の丸い頬をみがく
夏がそれだけ輝きを増す
内に床しい味わいを湛え
—— 人は
見えない時間にみがかれている

雨が銀杏の金の葉を落とす
秋がそれだけ透き通ってくる
うすいレースの糸を抜かれて

.....

雪がすべてを真白に包む
冬がそれだけ汚れやすくなる
汚れを包もうと また雪が降る
—— 私は
見えない時間に包まれている





天使のキャロル

星たちの 輝く夜
 我らのもと 届くうた
 高らかに 讃えられし
 救い主 イエスの名よ
 人の世に 今ぞ来たる
 待ちわびてた 神の子よ
 グロリア
 イン エクシエルシス デオ
 この喜びのうた

音もなき 真冬の夜
 静かに降る 雪のように
 歓びに 満ち溢れて
 降りそそぐ 朝日のように
 生まれ来ぬ 母のもとに
 愛の光 とこしえに
 グロリア
 イン エクシエルシス デオ
 空に地に平和を

遥かなる 空のかなた
 闇を照らす 星のように
 穢れなき 光のもと
 愛と希望を 我が元に
 讃えよう 神の御子を
 我らのもと 来たる子を
 グロリア
 イン エクシエルシス デオ
 今宵 我が主は来ぬ
 今宵 我が主は来ぬ

「女声合唱とハーブ、ホルンのための4つの歌」より

ハーブが強く鳴り響く

Es tönt ein voller Harfenklang,
 ハーブが強く鳴り響く
 den Lieb und Sehnsucht schwellen,
 愛と憧れでいっぱいになりながら
 er dringt zum Herzen tief und bang
 それは心に深くしみ入り
 und läßt das Auge quellen.
 眼に涙をあふれさす

O rinnet, Tränen, nur herab,
 おお、流れよ、わが涙、流れ落ちよ

o schlage, Herz, mit Beben!
 おお、打て、わが心、ひびの入る程!

Es sanken Lieb und Glück ins Grab,
 私の愛も喜びも墓の中

verloren ist das Leben!
 そして命も失われてしまった!

ふるさとの風

ふるさとの山の風は
 美しき川をすべり
 私の幼き翼を
 慈しみ吹くよ
 あの山のそびえるところ
 川の流れいずるところ
 いつかふるさとは
 夢の旅立つところ
 風よ風よ風よ
 ふるさとの風よ
 愛おしき人を
 守りたまえ

ふるさとの空の虹よ
 ふるさとの海の青よ
 私のとまどう背中を
 どうぞささえたまえ
 あの空の生まれるところ
 あの海の輝くところ
 いつかふるさとは
 夢の帰るところ
 空よ空よ空よ
 ふるさとの空よ
 うるわしき人を
 守りたまえ

ふるさとにやっと帰る
 少年の瞳のまま
 ふるさとにやっと戻れる
 少女の瞳のまま
 あの海の始まる場所
 あの鳥の羽ばたく場所
 いつかふるさとは
 心いやすところ
 海よ海よ海よ
 ふるさとの海よ
 あたたかき人を
 守りたまえ

You Raise Me Up

When I am down
and, oh, my soul, so weary;
落ち込んで、魂がとても疲れてしまった時

When troubles come
and my heart burdened be;
困難がやってきて、心に重荷を背負った時

End I am still
and wait here in the silence,
そんな時は静けさの中、じっと待つ
Until you come and sit awhile with me.
あなたが来て、しばらく一緒に座ってくれるまで

You raise me up,
あなたは私を起き上がらせてくれる

so I can stand on mountains;
だから山の上にだって立てる

You raise me up
あなたは私を起き上がらせてくれる

to walk on stormy seas;
嵐の海の上を歩けるほどに

I am strong when I am on
your shoulders:
私は強いわ、あなたの支えがある時は

「柳河風俗詩」より

柳河

もうし もうし 柳河じゃ
柳河じゃ
銅の鳥居を見やしゃんせ
欄干橋を見やしゃんせ
(馭者は喇叭の音をやめて
紅い夕日に手をかざす)

薊の生えた
その家は.....
その家は
旧いむかしの遊女屋 (ノスカイヤ)
人も住はぬ遊女屋

裏の BANKO にいる人は.....
あれは隣の継娘継娘
水に映つたそのかげは.....
そのかげは
母の形見の小手鞆を
小手鞆を
赤い毛糸でくくるのぢゃ
涙片手にくくるのぢゃ

もうし もうし 旅のひと
旅のひと
あれ あの三味をきかしゃんせ
鳩の浮くのを見やしゃんせ
(馭者は喇叭の音をたてて
あかい夕日の街に入る)

夕焼小焼,
明日天気になあれ。

かきつばた

柳河の
古きながれのかきつばた
昼は ONGO の手にかをり
夜は萎れて
三味線の
細い吐息に泣きあかす
(鳩のあたまに火ん点いた
潜んだと思ふたらちい消えた)

梅雨の晴れ間

廻せ 廻せ 水ぐるま
けふの午から忠信が
隈どり紅い しゃっ面に
足どりかるく 手もかるく
狐六法踏みゆかむ 花道の下
水ぐるま.....

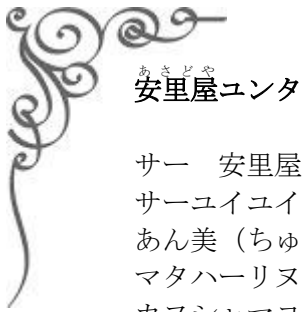
廻せ 廻せ 水ぐるま
雨に濡れたる古むしろ
円天井のその屋根に
青い空透き 日光の
七宝のごときらきらと
化粧部屋にも笑ふなり

廻せ 廻せ 水ぐるま
梅雨の晴れ間の一日を
せめて楽しく浮かれよと
廻り舞台も滑るなり
水を汲み出せ その下の
葱の畑のたまり水

廻せ 廻せ 水ぐるま
だんだら幕の黒と赤
すこしかかけて なつかしく
旅の女形もさし覗く
水を汲み出せ 平土間の
田舎芝居の蕪畑

廻せ 廻せ 水ぐるま
はやも昼から忠信が
紅隈とったしゃっ面に
足どりかるく 手もかるく
狐六法踏みゆかむ
花道の下 水ぐるま.....





安里屋ユンタ

(意味)

サー 安里屋ぬ くやまにヨ 安里屋のクヤマという娘は
 サーユイユイ
 あん美(ちゆ) らさ生りばしヨ あんなに美しい生まれをして
 マタハーリヌ チインダラ (いとしい いとしい乙女よ)
 カヌシャマヨ
 サー いみしやからあふあり 幼い時から美しい生まれであり
 生りばし
 サーユイユイ
 くゆさから白るさしいでいばし 小さい時から美しく孵(うまれ)た
 マタハーリヌ チインダラ (いとしい いとしい乙女よ)
 カヌシャマヨ
 サー 目差主ぬ 乞よたらヨ 村長の目差役人にみそめられ
 サーユイユイ
 あたりよやぬ望みよたヨ 他の役人にも所望された。
 マタハーリヌ チインダラ (いとしい いとしい乙女よ)
 カヌシャマヨ
 サー 目差主や ばなんばヨ 「目差役人のめかけはいやだ
 サーユイユイ
 あたりよややーくれゆむヨ 他の役人もきらいだ。」
 マタハーリヌ チインダラ (いとしい いとしい乙女よ)
 カヌシャマヨ
 サー なゆでから んばですヨ 何故に いやという
 サーユイユイ
 如何でからゆむですヨ いかなる理由できらいなのか
 マタハーリヌ チインダラ (いとしい いとしい乙女よ)
 カヌシャマヨ
 サー 後ぬくとう 思いどうヨ 後々のことを 思うからです
 サーユイユイ
 すらぬ為考やどうヨ 将来のことを 考えるからです
 マタハーリヌ チインダラ (いとしい いとしい乙女よ)
 カヌシャマヨ

群青

ああ あの街で
生まれて君と出会い
たくさんの想い抱いて
一緒に時を過ごしたね

今旅立つ日
見える景色は違っても
遠い場所で 君も同じ空
きっと見上げてるはず

「またね」と手を振るけど
明日も会えるのかな
遠ざかる 君の笑顔
今でも忘れない

あの日みた夕日
あの日見た花火
いつでも君がいたね
当たり前が幸せと知った

自転車をこえて
君と行った海
鮮やかな記憶が
目を閉じれば
群青に染まる

あれから二年の日が
僕らの中を過ぎて
三月の風に吹かれ
君を今でも想う

響けこの歌声
響け遠くまでも
あの空の彼方へも
大切な全てに届け

涙のあとにも
見上げた夜空に
希望が光ってるよ

僕らを待つ群青の街で
あぁー

きっとまた会おう
あの街で会おう
僕らの約束は
消えはしない
群青の絆

また 会おう
群青の街で

「荘厳ミサ曲」 KV337

KIRIE キリエ(あわれみの賛歌)

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

主よ、あわれみたまえ
キリスト、あわれみたまえ
主よ、あわれみたまえ

GLORIA グローリア(栄光の賛歌)

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te.
Adoramus te. Glorificamus te.
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus, Rex caelestis, Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus sanctus. Tu solus Dominus.
Tu solus altissimus, Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris. Amen.

天のいと高き所には神に栄光あれ
地には善意の人に平和あれ
われら主をほめ、主をたたえ
主をおがみ、主をあがめ
主のたいなる栄光のゆえに感謝してまつる
神なる主、天の王、全能の父なる神よ
主なる御ひとり子、イエス・キリストよ
神なる主、神の小羊、父の御子よ
世の罪をのぞきたもう主よ、われらをあわれみたまえ
世の罪を除きたもう主よ、われらの願いを聞き入れたまえ
父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ
主のみ 聖なり、主のみ 王なり
主のみいと高し イエス・キリストよ
聖霊とともに父なる神の栄光のうちにアーメン

CREDO クレド(信仰宣言)

Credo in unum Deum,
Patrem omnipotentem, factorem caeli et terrae,
visibilium omnium et invisibilium.
Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filius Dei unigenitum.
Et ex Patre natum ante omnia saecula.
Deum de Deo, lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero.
Genitum, non factum, consubstantialem Patri:
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines,
et propter nostram salutem descendit de caelis.
Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine: Et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis:
sub Pontio Pilato passus, et sepultus est.
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.
Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est
cum gloria, iudicare vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum Sanctum, Dominum. Et vivificantem:
Qui ex Patre Filioque procedit.
Qui cum Patre et Filio. Simul adoratur. Et conglorificatur:
qui locutus est per Prophetas.
Et unam sanctam catholicam et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unum baptismum in remissionem peccatorum.
Exspecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi. Amen.

われは信ず、唯一の神
全能の父、天と地、
見ゆるもの、見えざるものすべての造り主を
われは信ず、唯一の主、
神の御ひとり子イエス・キリストを
主はよろず世の先に、父より生まれ、
神の中の神、光の中の光、
真の神の中の真の神
造られずして生まれ、父と一体なり、
すべては主によりて造られたり
主はわれら人類のため、
またわれらの救いのために、天より降り
聖霊によりて、おとめマリアより
御からだを受け、人となりたまえり
ポンティオ・ピラトのもとにて、
われらのために十字架につけられ、
苦しみを受け、葬られたまえり
聖書にありしごとく、三日目に蘇り
天に昇りて、父の右に座したもう
主は栄光のうちに再び来たり
生ける人と死せる人とを裁きたもう
主の国は終わることなし
われは信ず、主なる聖霊・生命の与え主を

聖霊は父と子とよりいで、
父と子とともに拝みあがめられ
また預言者により語られ
われは唯一の、聖なる、公の、
使徒を継承する教会を信じ
罪の赦しのためなる唯一の洗礼を認め
死者の蘇りと
来世の生命とを待ち望むアーメン

SANCTUS&BENEDICTUS サンクトゥス&ベネディクトゥス(感謝の賛歌)

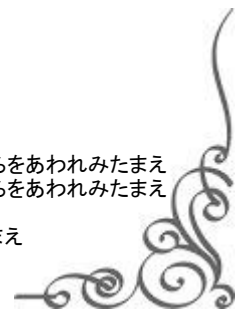
Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra Gloria tua.
Hosanna in excelsis
Benedictus qui venit in nomine Domini
Hosanna in excelsis.

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな
万軍の神なる主
主の栄光は天地に満つ
天のいと高き所にホザンナ
ほむべきかな主の御名によりて来たるもの
天のいと高き所にホザンナ

AGNUS DEI アニウス・デイ(平和の賛歌)

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona nobis pacem.

神の小羊 世の罪を除きたもう主よ、我らをあわれみたまえ
神の小羊 世の罪を除きたもう主よ、我らをあわれみたまえ
神の小羊 世の罪を除きたもう主よ、
我らに平安を与えたまえ





MEMBER 合唱出演者

宮古木曜会合唱団

Soprano 大久保秀子 太田屋早紀 里見まどか 田澤紗綾 富樫亮子 芳賀志津子
花館志穂 山根日和 吉田真弥子 ☆大西和子 (札幌市)

Alto 大石敦子 大坂久子 小林弘江 斉藤絹子 高岩厚子
中村登志江 武藤歩子 古館陽子

Tenor 及川尚樹 川原田隆司 佐々木幹雄 高玉智晴 田澤佑亮
☆千葉行有 (矢巾町) ☆沼田圭一 (盛岡市)

Bass 内村義博 木村茂男 花館充章 武藤秀郷 ☆東海林隆幹(盛岡市)

☆ 団友

宮古高校音楽部

Soprano 石曾根来夢 黒坂杏奈 坂田葵 里見まどか 館洞早希 中坪実優

Mezzosoprano 北村麻実 工藤いづみ 高橋風花 山根日和

Alto 伊藤温 木村裕花 佐々木いづみ 三田地咲紀

協賛いただきました皆様

社団法人 Harmony for Japan

アトム動物病院	伊東産婦人科医院	茅原クリニック (新潟)
岩間耳鼻咽喉科医院	うみねこ鍼灸接骨院	いとう接骨院
大坂建設 (株)	奥脳神経外科クリニック	おおうち消化器内科クリニック
(有) 刈屋商店 (磯鶏)	川原田小児科医院	(株) 大越電気
(資) 健康堂薬局	(株) 小成こなりミュージック	グループホーム樫内
(株) 坂庄 saku saku	さかもと眼科クリニック	後藤医院 (山田)
澤田歯科医院	三陸病院	佐藤雅夫クリニック
(株) 高京	(株)高岩本店	有限会社 摂待生花店
トマト&オニオン宮古店	富山建設 (有)	とがし家畜診療所
ドール洋菓子店	中屋石油 (株)	豊島医院
林整形外科内科医院	美容室じゃまール	(有) 西野屋
(有) ホームワンサトー	(有) 真崎タクシー	フラワーショップ 花ことば
(株) 丸光商事	みつこ美容室	松井産婦人科医院

ありがとうございました

プログラム制作

山崎佐和子

